



# Sun Fire™ X4600 サーバー ご使用にあたって

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

部品番号 820-0774-10  
2007年2月、改訂A

本書に関するコメントは、次の宛先までお送りください。<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。米国 Sun Microsystems 社またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア (フォントに関するテクノロジーを含む) は、著作権を有する当該各社より米国 Sun Microsystems 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーが採用されています。

AMD Opteron は Advanced Microdevices, Inc. の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインターフェイスは、米国 Sun Microsystems 社がユーザーおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。米国 Sun Microsystems 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェイスの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。米国 Sun Microsystems 社は、Xerox グラフィカルユーザーインターフェイスに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する米国 Sun Microsystems 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は米国 Sun Microsystems 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

---

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuelle relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

AMD Opteron est une marque de fabrique ou une marque déposée de Advanced Microdevices, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISÉE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# 目次

---

はじめに vii

サービスプロセッサおよび BIOS の問題 1

サービスプロセッサの問題 2

サービスプロセッサで、ハードディスクが取り外されたあと、イベントのログが書き込まれず、警告も表示されない (6306536) 2

ILOM Web GUI または CLI で、16 文字のパスワードを使用してサービスプロセッサにログインできない (6286187) 2

ILOM CLI で報告されるハードウェアコンポーネントのデータと IPMItool で報告されるデータが一致しない (6371317、6420808) 3

DIMM エラーのあと、不適切な DIMM 障害 LED が点灯することがある (6403209、6420909) 3

点滅する LED に ILOM CLI クエリーを実行すると、LED が点灯しているのか消灯しているのかによって、発動の状態と返されたり、アサート停止の状態と返されたりする (6417946、6420919) 4

ILOM GUI で正しい位置特定 LED 状態が表示されず、位置特定 LED をオフにするのに使用できない (6394706、6420922) 4

シェルプロンプト応答がないので、ルートユーザーが ILOM にログインできない (6444399、6475327) 5

Sun Fire X4600 サーバーに誤って不適切なプラットフォームファームウェアをフラッシュしてしまった場合の回復 5

実装されていないシンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) トラップ (6300437) 7

その他の SNMP の問題 7

## BIOS の問題 9

F8 キーと F12 キーがブート用の NIC カードの選択時に機能しない  
(6478959) 9

すべてのデバイスがスキャンされる前に、PXE ブート用のオプション ROM  
の容量が使い果たされる可能性がある (6453144、6403173、6272514、  
6393809、6439856、6462303) 9

BIOS ですべてのデバイスがスキャンされる前に、12 個のブートデバイス制  
限を超える可能性がある (6268877、6439856) 13

HBA カードを取り付けるか取り外すと、BIOS 設定のハードディスクドライ  
ブの順序が変更される (6308569、6450677) 15

GUI で BIOS 電源ボタンのオプション、即時オフ機能が動作しない  
(6378165) 17

## LSI ファームウェアの問題 18

RAID ボリュームで 64M バイトのパーティション分けしていないハードディ  
スク容量がメタデータ用に必要になる (6312581) 18

## ソフトウェアの問題 19

### Solaris オペレーティングシステムの問題 20

2 番目のディスクを挿入すると、CD メディアからの Solaris 10 のインストー  
ルがハングする (6374024) 20

Solaris の起動時に表示される AMD エラッタ 131 警告メッセージは無視して  
かまわない (6438926、6447850) 20

### Linux オペレーティングシステムの問題 21

X Windows Server の起動時の RHEL4 U3 の不一致エラー (6459079) 21

PCI の Hotplug および Hotswap 機能がサポートされない (6357475) 21

ドライブトレイがないために RHEL4 U2 および U3 の CD または DVD-ROM  
パッケージコマンドエラーが発生する (6397835、6461354) 22

RHEL4 U2、RHEL4 U3、および SLES9-SP3 で GUI をブート中に無視できる  
メッセージ「event field not found (イベントフィールドが見つかり  
ません)」が表示される (6396561、6404681) 22

RHEL4 U3 で USB 2.0 がサポートされない (6396407) 23

アドインのイーサネットカードが Red Hat Linux の devXXXX として表示さ  
れることがある (6406618) 24

BIOS 38 のサーバーでは RHEL4 NMI ウォッチドッグタイマーを無効にする必要がある (6486170) 24

RHEL4 NMI ウォッチドッグを無効にすると、BIOS 38 より以前の BIOS を使用しているサーバーのパフォーマンスが向上することがある (6428863) 25

RHEL4 U4 のタイマーティックのロスに関するメッセージは無視してかまわない (6481870、6486383) 26

SLES9 SP3 のブートアップ ACPI エラーメッセージ: 戻りオブジェクトのタイプが正しくない (6461361) 27

SLES9 SP3: yast2 でテキストの代わりに制御文字が表示される (6461305) 27

SLES9 SP3 でフロッピードライブに対して重複するブートアップメッセージが発生する (6461350) 28

エラーメッセージ: SLES9 SP3 で「Not a Capable Intel Processor (対応する Intel プロセッサではありません)」と表示される (6461373) 28

SLES9 SP3 をグラフィカルモードでインストールすると、メモリー不足を通知するメッセージが表示される (6368933、6466229) 29

SLES9 SP3 で `cdrecord -scanbus` コマンドを発行すると、警告メッセージが表示される (6461376) 29

SLES9 SP3 のインストール中に 128G バイトのスワップパーティションを作成できない (6480937、6485910) 30

## VMware® ESX Server の問題 31

ESX Server のメッセージ「invalid vmkernel id (無効な vmkernel id)」がネットワーク障害を表す (6471417、6486370) 31

ESX Server のメッセージ「Unexpected IO-APIC error (予期しない IO-APIC エラー)」は無視してかまわない (6486365、6471408) 31

ESX Server の `dmesg` ログのメッセージ「BIOS reporting unknown devices (BIOS が不明なデバイスを報告しています)」は無視してかまわない (6486369、6480821) 32

ESX Server のメッセージ「Syncing Hardware Clock to System Time [Failed] (ハードウェアクロックをシステム時間と同期しています [失敗])」は無視してかまわない (6486367、6473366) 32

ESX Server のメッセージ「Unable to get COS default route (COS のデフォルトルートを取得できません)」は、デフォルトルート IP アドレスが定義されていないことを示す (6486375) 33

ESX Server のメッセージ「Inquiry EVPD Device ID Failed (EVPD デバイス ID の問い合わせに失敗しました)」は無視してかまわない (6473372、6486372) 33

#### SunVTS のブート可能診断 CD の問題 34

Bootable Diagnostics CD, Version 2.1f (ブート可能診断 CD バージョン 2.1f) の「Meter (メーター)」ボタンが機能しない (6465167) 34

SunVTS 6.2 Bootable Diagnostics CD (SunVTS 6.2 ブート可能診断 CD) の実行中に BMC テストが失敗する (6449785) 34

#### Windows Server 2003 オペレーティングシステムの問題 35

複数のフロッピードライブが存在すると、Windows ユーティリティの `mkfloppy.exe` が正しいフロッピードライブを選択しない 35

#### ハードウェアの注意および問題 37

##### ハードウェアの問題 37

動作時や取り外し時にハードディスクドライブの表面が熱くなることがある (6483742) 37

ヒートシンクおよびファンにほこりがたまることがある 37

部品番号が異なる Micron 1G バイト DIMM を取り付けると、システムが起動しない (6480932) 38

最初の電源投入後システムファンが減速するまで 1 分以上かかる 38

ディスクを DVD-ROM ドライブに挿入するときには、ラベル側を左に向ける必要がある 38

#### 索引 41

# はじめに

---

本書では、Sun Fire™ X4600 サーバーのハードウェアの問題、ソフトウェアの問題、ドキュメントの問題について説明します。

問題には、前提条件、ヒント、トラブルシューティングのヒント、変更リクエストなど、ユーザーが理解すべき情報が含まれます。変更リクエストには追跡番号があります（括弧内に表示）。変更リクエストのアップデートおよびパッチについては、SunSolve<sup>SM</sup> Web サイト (<http://sunsolve.sun.com>) を参照してください。

---

**注** – システムに同梱の CD に収録されているソフトウェアは、出荷時に取得された最新版です。再インストールやシステムリカバリに使用できます。ソフトウェアのバージョンは頻繁にアップデートされるので、製品ダウンロードサイトで、Sun の承認を受けたソフトウェアの最新版がリリースされていないかどうかを確認してください。

---

---

## 製品のアップデート

ダウンロードできる Sun Fire X4600 サーバー製品のアップデートについては、次の URL を参照し、本製品に関するページに移動してください。

<http://www.sun.com/servers/index.jsp>

これらのサイトでは、ファームウェアとドライバ、CD-ROM .iso イメージのアップデートが提供されています。

---

## 関連ドキュメント

Sun Fire X4600 サーバーのドキュメントセットの説明については、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照してください。

[http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64\\_servers/x4600/index.html](http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64_servers/x4600/index.html)

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun ハードウェアおよびソフトウェアのすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris およびその他ソフトウェアのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>



---

## 表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% <b>su</b> Password:
AaBbCc123	新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

\* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

---

## Sun テクニカルサポートの連絡先

サーバーに関して、本書に記載されていないテクニカルな質問がある場合は、次のサイトをご利用ください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

「Support (サポート)」メニューにある「Knowledgebase (ナレッジベース)」へのリンクを参照してください。

Sun テクニカルサポートに連絡する前に、次の情報を確認してください。これにより、問題を解決するための支援が可能になります。

- 問題の内容 (問題が発生した状況、操作への影響など)
- コンピュータの種類、オペレーティングシステムのバージョン、製品のバージョン (パッチや問題に影響を及ぼしている可能性のある他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための詳細な手順
- エラーログまたはコアダンプ

---

## サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

---

## コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。フィードバックは次のサイトから送信してください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Fire X4600 サーバーご使用にあたって』、部品番号 820-0774-10

# サービスプロセッサおよび BIOS の問題

---

この章では、Sun Fire X4600 サーバーに関連する LSI ファームウェア、Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサ (SP)、および BIOS の問題について説明します。セクションのタイトル内に記載されている番号は、問題に関連する変更リクエスト用に内部で使用する追跡番号です。

この章では、次の項目について説明します。

- [2 ページの「サービスプロセッサの問題」](#)
- [9 ページの「BIOS の問題」](#)
- [18 ページの「LSI ファームウェアの問題」](#)

---

## サービスプロセッサの問題

### サービスプロセッサで、ハードディスクが取り外されたあと、イベントのログが書き込まれず、警告も表示されない (6306536)

ハードディスクをシステムから取り外すと、サービスプロセッサはログへのイベントの書き込みを行わず、警告も表示しません。これは、ディスクドライブがホットプラグの場合サービスプロセッサは LSI SAS コントローラからイベントを受信せず、警告も発生しないことから、正常な動作です。

#### 対処方法

ありません。これは、正常な動作です。

### ILOM Web GUI または CLI で、16 文字のパスワードを使用してサービスプロセッサにログインできない (6286187)

パスワードの文字数がちょうど 16 文字の場合、ILOM Web GUI またはコマンドラインインタフェース (CLI) を使用して ILOM SP にログインできません。

#### 対処方法

16 文字より少ない文字数のパスワードを選んでください。

## ILOM CLI で報告されるハードウェアコンポーネントのデータと IPMItool で報告されるデータが一致しない (6371317、6420808)

フィールド交換可能なユニット (FRU) のハードウェアコンポーネントに関するデータは、ILOM コマンドラインインタフェース (CLI) から問い合わせる場合と、IPMItool から問い合わせる場合とでは、一貫して報告されません。CLI コマンドで返される FRU データは場合によっては完全ではありません。IPMItool から読み込まれる FRU データは正確で完全です。

### *対処方法*

CLI コマンドで返される FRU データに頼らず、代わりに IPMItool を使用して FRU データを表示してください。

## DIMM エラーのあと、不適切な DIMM 障害 LED が点灯することがある (6403209、6420909)

DIMM 障害 LED は、対の DIMM スロットに障害のある DIMM が含まれる場合、そのエジェクタレバーを点灯するように設計されています。ただし、この時点では DIMM 障害 LED をオンにする DIMM 障害イベントがコードで正しく解釈されないため、不適切な DIMM 障害 LED が点灯することがあります。

### *対処方法*

障害のある DIMM を特定するには DIMM 障害 LED に頼らず、代わりに IPMItool を使用してください。

## 点滅する LED に ILOM CLI クエリーを実行すると、LED が点灯しているのか消灯しているのかによって、発動の状態と返されたり、アサート停止の状態と返されたりする (6417946、6420919)

システムの LED の中には、位置特定 LED など、点滅の状態のものがあります。CLI 経由で ILOM クエリーコマンドを入力すると、LED の点滅が点灯しているのか消灯しているのかによって、LED の状態が発動と報告されたり、アサート停止と報告されたりします。たとえば、`show /SYS` コマンドを数回入力すると、その時点で、LED の点滅が点灯しているのか消灯しているのかによって、LED が発動またはアサート停止の状態として表示されます。

### 対処方法

点滅する LED の状態を問い合わせるには CLI コマンドに頼らず、代わりに IPMITool コマンドを使用してください。たとえば、デフォルトのユーザー名が `root` でデフォルトのパスワードが `changeme` のサーバーの LED の状態を問い合わせるには、次のコマンドを使用します。

```
ipmitool -U root -P changeme -H <SP_IP_アドレス> sunoem led get
```

## ILOM GUI で正しい位置特定 LED 状態が表示されず、位置特定 LED をオフにするのに使用できない (6394706、6420922)

ILOM GUI では位置特定 LED の正しい状態は表示されません。SP に Web ブラウザのルートとしてログインし、「System-Monitoring (システム監視)」で「Locator-Indicator (ロケータインジケータ)」をクリックすると、位置確認 LED は常にオフとして表示されます。

また、位置確認 LED 状態を ILOM GUI からオンにすることはできますが、ILOM GUI からオフにすることはできません。

### 対処方法

位置確認 LED の状態を読み取るには ILOM GUI に頼らず、代わりに IPMITool を使用してください。

ILOM GUI を使用して位置確認 LED をオンまたはオフにすることはできますが、IPMITool を使用するかシャーシの電源ボタンを使用してください。

## シェルプロンプト応答がないので、ルートユーザーが ILOM にログインできない (6444399、6475327)

i2c エラーによって、ILOM SP の機能が停止することがあります。この場合、シェルプロンプトが受信されないため、ILOM SP からの応答がありません。

### 対処方法

ILOM SP をリセットしてください。SP をリセットするには、次のコマンドを使用します。

```
ipmitool -U root -P <パスワード> -H <SP_IP アドレス> bmc reset cold
```

## Sun Fire X4600 サーバーに誤って不適切なプラットフォームファームウェアをフラッシュしてしまった場合の回復

Sun Fire X4600 ファームウェアからはバージョンチェックが行われなかったため、不適切なプラットフォームファームウェアをサーバーにフラッシュしてしまう可能性があります。この場合、サーバーはプロセス終了後にリブートしません。

次のコマンドを使用して、サーバーハードウェアのバージョンを確認します。

```
ipmitool -H <SP_IP_アドレス> -U <ユーザー名> -P <パスワード> fru
```

このコマンドを実行すると、次のような出力が返されます。

```
FRU Device Description (FRU デバイスの説明) : p0.card.fru (ID 10)
Board Product (ボード製品)                   : ASSY,CPU BOARD,X4600 M2
Board Serial (ボードシリアル番号)           : 002555
Board Part Number (ボード部品番号)          : 501-7321-03
Board Extra (ボード追加)                     : 01
Board Extra (ボード追加)                     : G4_F_CPU
```

「Board Product (ボード製品)」フィールドに ASSY,CPU BOARD,X4600 以外の情報が表示されている場合は、X4600 に不適切なファームウェアイメージをフラッシュしています。たとえば、ASSY,CPU BOARD,X4600 M2 と表示されている場合は、Sun Fire X4600 M2 ファームウェアを Sun Fire X4600 に誤ってフラッシュしたと考えられます。

### 回復手順

システムはリブートしません。ただし、Sun Fire X4600 ファームウェアに戻せるように、サービスプロセッサは引き続き機能しています。次の手順に従います。

1. Sun Fire X4600 ファームウェアの最新版をダウンロードしてフラッシュします。

フラッシュプロセスが終了すると、別のプラットフォームファームウェアに変更していることを通知する次のようなメッセージが表示されます。

```
Firmware image verification is complete.
```

(ファームウェアイメージ検証が完了しました)

```
Image compatibility check is complete.
```

(イメージ互換性チェックが完了しました)

```
Image is not compatible with this target.
```

(イメージはこのターゲットと互換性がありません)

```
If incompatibility is caused by hardware replacement, type "y" to  
continue.
```

(ハードウェアの交換が原因の場合は、Y を押して先に進みます)

```
If unsure type "n".
```

(原因が分からない場合は、N を押します)

```
Do you wish to continue ([n]/y)?
```

(先に進みますか ([n]/y)?)

```
Type y at this prompt to continue.
```

(この画面で Y を押して先に進みます)

2. この画面で y を押して先に進みます。

3. サーバーをリブートします。

4. 次のコマンドを使用して、サーバーハードウェアのバージョンを確認します。

```
ipmitool -H <SP_IP_ アドレス> -U <ユーザー名> -P <パスワード> fru
```

```
FRU Device Description (FRU デバイスの説明) : p0.card.fru (ID 10)
```

```
Board Product (ボード製品) : ASSY,CPU BOARD,X4600
```

```
Board Serial (ボードシリアル番号) : 002555
```

```
Board Part Number (ボード部品番号) : 501-7321-03
```

```
Board Extra (ボード追加) : 01
```

```
Board Extra (ボード追加) : G4_CPU
```

「Board Extra (ボード追加)」フィールドには G4\_CPU と表示され、「Board Product (ボード製品)」フィールドには ASSY,CPU BOARD,X4600 と表示されるはずですが。



# 実装されていないシンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) トラップ (6300437)

次のトラップは現在サポートされていません。

- SUN-PLATFORM-MIB
  - sunPlatObjectCreation
  - sunPlatObjectDeletion
  - sunPlatCommunicationsAlarm
  - sunPlatEnvironmentalAlarm
  - sunPlatEquipmentAlarm
  - sunPlatProcessingErrorAlarm
  - sunPlatStateChange
  - sunPlatAttributeChangeInteger
  - sunPlatAttributeChangeString
  - sunPlatAttributeChangeOID
  - sunPlatQualityOfServiceAlarm
  - sunPlatIndeterminateAlarm
- ENTITY-MIB
  - entConfigChange
- SNMPv2-MIB
  - coldStart
  - warmStart
  - authenticationFailure

## その他の SNMP の問題

次の SNMP の問題には限界があることが知られています。

- SNMP エージェントは現在、Entity および Sun Platform MIB で SET を扱いません。このため、SET を含む準拠確認テストはエラーになります。必要なタスクを実行するには、他のサービスを利用してください。(6255301)
- SNMP ユーザーが削除されているときのエラーメッセージが明確ではありません。たとえば、ある動作の直後にユーザーが削除されている場合、「Target cannot be deleted (ターゲットは削除できません)」というメッセージが表示されません。通常、これらのコマンドは無視してかまいません。ただし、スクリプトされたコマンドは正常終了しない場合があります。(6284706)
- 複数の接続があると、それに対応して SNMP エージェントが停止します。この場合、SNMP またはシステムをリブートする必要があります。(6290651)
- ユーザーが追加されると、エラーメッセージが表示されます。たとえば、「SNMP agent not up yet, may be reconfiguring (SNMP エージェントがブートしていません。再設定中の場合があります)」というメッセージが表示されます。通常、このメッセージは無視してかまいません。(6292473)

- sysUpTime の値が不正である場合があります。たとえば、数日前に組み立てられたシステムの連続稼働時間が 51 日間と表示されることがあります。このバグは修正されました。(6295609)
- CLI を使用してコミュニティ最大数を設定すると、SNMP エージェントが切断され、システムのレポートが必要になる場合があります。(6316403)

---

## BIOS の問題

### F8 キーと F12 キーがブート用の NIC カードの選択時に機能しない (6478959)

NIC カードを取り付けて、システム BIOS で内蔵 NIC より先に NIC カードがスキャンされるようにブート順を指定したときは、ブートアップ中にネットワークからブートするために F12 キーを押すと、NIC カードからブートするはずですが、F12 キーを押しても、NIC カードからシステムがブートしません。

また、ブートアップ中に F8 キーを押してブート選択リストから NIC カードを選択しようとしても機能しません。

#### 対処方法

NIC カードをサーバーで使用しないでください。

### すべてのデバイスがスキャンされる前に、PXE ブート用のオプション ROM の容量が使い果たされる可能性がある (6453144、6403173、6272514、6393809、6439856、6462303)

BIOS オプション ROM は 128K バイトです。128K バイト中、約 80K バイトは VGA コントローラ、LSI コントローラ、NIC に使用されます。約 48K バイトがその他のオプション ROM 用です。

PXE ブートで使用される、取り付け済みの PCI デバイスの数によっては、内蔵 NIC、SAS コントローラ、またはブート順の後ろにある取り付け済みの PCI カードが BIOS でスキャンされる前に、オプション ROM の容量が使い果たされる可能性があります。これは、正常な動作です。

考えられる影響：

- イーサネットポートから PXE ブートできず、次のエラーメッセージが表示されます。  
Not enough space to copy PCI Option ROM  
(PCI オプション ROM をコピーするのに十分な容量がありません)

- イーサネットポートから PXE ブートできず、次のエラーメッセージが表示されます。  
Base-Code ROM ID structure not found  
(ベースコード ROM ID 構造が見つかりませんでした)
- オプション ROM の容量が使い果たされたあとでスキャンされる PCI スロットに PCI カードが取り付けられていると、PXE ブートできません。
- オプション ROM の容量が使い果たされたあとでスキャンされる PCI スロットに HBA カードとそのカードに接続されている HDD アレイが取り付けられていると、それらは検出されません。

デバイスおよび PCI スロットはセットアップの間に、BIOS によって次の順序で検出されます (PCI スロットの検出については、[図 1](#) も参照)。

1. PCI-E スロット 2
2. PCI-E スロット 3
3. PCI-E スロット 4
4. 内蔵 Intel NIC
5. PCI-X スロット 0
6. PCI-X スロット 1
7. 内蔵 LSI SCSI コントローラ
8. PCI-E スロット 5
9. PCI-E スロット 6
10. PCI-E スロット 7

## 対処方法

目的のデバイスから PXE ブートできるようにオプション ROM の容量を確保するには、次の 2 つの方法があります。

- ブートするデバイスが BIOS のブートデバイスリストに表示されている場合は、次のオプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。
- ブートするデバイスがブートデバイスリストに表示されていない場合は、次のオプション 1 の手順に従ってデバイスをリストに表示してから、オプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。

**オプション 1:** PXE ブートを必要としないすべてのデバイスのオプション ROM スキャンを無効にします。こうすることで、PXE ブートするデバイス用にオプション ROM の容量を確保できます。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「PCIPnP」タブを選択して、「PCI/PnP Settings (PCI/PnP 設定)」画面を開きます。
3. PXE ブートしない PCI カードまたは NIC のフィールドを「Disabled (無効)」に変更します。
4. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

**オプション 2:** BIOS ブート順を手動で設定して、オプション ROM の容量が使い果たされる前にスキャンされるように PXE ブートするデバイスのブート順を繰り返します。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Boot (ブート)」タブを選択して、「Boot (ブート)」メインメニュー画面を開きます。
3. 「Boot Device Priority (ブートデバイス優先度)」を選択するか、リストから「Hard Disk Drives (ハードディスクドライブ)」を選択してハードディスクドライブに変更します。
4. ブートデバイスまたはハードディスクドライブの選択項目を変更して、必要なデバイス順になるように設定します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
6. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

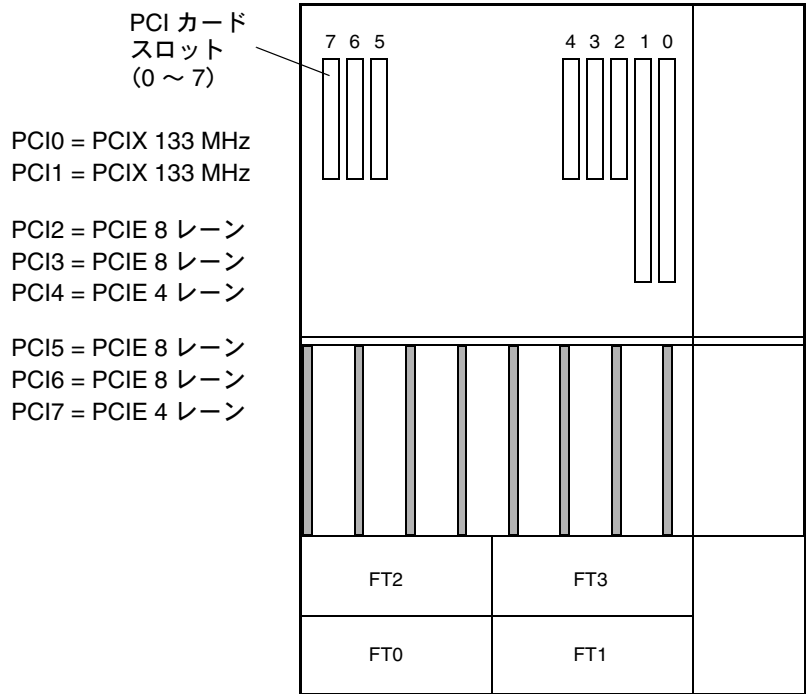


図 1 Sun Fire X4600 PCI スロットの構成と速度

## BIOS ですべてのデバイスがスキャンされる前に、 12 個のブートデバイス制限を超える可能性がある (6268877、6439856)

サーバー BIOS は最大 12 個のデバイスをスキャンできますが、サーバーに取り付けられているデバイスによっては、サーバー内のすべてのデバイスがスキャンされる前に、この制限を超える可能性があります。たとえば、ディスクアレイが接続された HBA を、内蔵 LSI SAS コントローラの前にスキャンされる PCI スロットに取り付けた場合、HBA とそれに接続されている HDD で 12 デバイス制限を超えると、内蔵 HDD がスキャンされないことがあります。

これは、正常な動作です。12 デバイス制限を超えたデバイスは、OS レベルでは参照できませんが、POST 中の BIOS ではスキャンされません。

考えられる影響：

- 内蔵 HDD からブートできません。
- NIC がスキャンされないため、PXE ブートで使用できません。

BIOS は PCI デバイスを昇順（低い PCI アドレスから高い PCI アドレスへ）でスキャンします。スキャンの優先度は次のとおりです。

1. PCI-E スロット 2
2. PCI-E スロット 3
3. PCI-E スロット 4
4. 内蔵 Intel NIC
5. PCI-X スロット 0
6. PCI-X スロット 1
7. 内蔵 LSI SCSI コントローラ
8. PCI-E スロット 5
9. PCI-E スロット 6
10. PCI-E スロット 7

PCI スロットの位置については、[図 1](#) を参照してください。

### 対処方法

次のオプション 1 の手順に従ってデバイスをリストに表示してから、オプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。

**オプション 1:** PXE ブートを必要としないすべてのデバイスのオプション ROM スキャンを無効にします。こうすることで、PXE ブートするデバイス用にオプション ROM の容量を確保できます。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「PCIPnP」タブを選択して、「PCI/PnP Settings (PCI/PnP 設定)」画面を開きます。
3. PXE ブートしない PCI カードまたは NIC のフィールドを「Disabled (無効)」に変更します。
4. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

**オプション 2:** BIOS ブート順を手動で設定して、オプション ROM の容量が使い果たされる前にスキャンされるように PXE ブートするデバイスのブート順を繰り上げます。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Boot (ブート)」タブを選択して、「Boot (ブート)」メインメニュー画面を開きます。
3. 「Boot Device Priority (ブートデバイス優先度)」を選択するか、リストから「Hard Disk Drives (ハードディスクドライブ)」を選択してハードディスクドライブに変更します。
4. ブートデバイスまたはハードディスクドライブの選択項目を変更して、必要なデバイス順になるように設定します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
6. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。



## HBA カードを取り付けるか取り外すと、BIOS 設定のハードディスクドライブの順序が変更される (6308569、6450677)

サポートされているホストバスアダプタ (HBA) カードを取り外すか取り付けると、BIOS 内の HDD の順序が変更されることがあります。HBA に接続されている HDD が先にスキャンされた場合、システムを内蔵 HDD から OS レベルまでブートできないことがあります。

BIOS は PCI デバイスを昇順 (低い PCI アドレスから高い PCI アドレスへ) でスキャンします。スキャンの優先度は次のとおりです。

1. PCI-E スロット 2
2. PCI-E スロット 3
3. PCI-E スロット 4
4. 内蔵 Intel NIC
5. PCI-X スロット 0
6. PCI-X スロット 1
7. 内蔵 LSI SCSI コントローラ
8. PCI-E スロット 5
9. PCI-E スロット 6
10. PCI-E スロット 7

PCI スロットの位置については、[図 1](#) を参照してください。

### 対処方法

これは、正常な動作です。外付けストレージデバイスに接続された、サポートされている HBA カードを取り付けたあと、または取り外したあと、目的のデバイスからブートできるようにするには、次の 2 つの方法があります。

- ブートするデバイスが BIOS のブートデバイスリストに表示されている場合は、次のオプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。
- ブートするデバイスがブートデバイスリストに表示されていない場合は、次のオプション 1 の手順に従ってデバイスをリストに表示してから、オプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。

**オプション 1:** PXE ブートを必要としないすべてのデバイスのオプション ROM スキャンを無効にします。こうすることで、ブートするデバイスがリストに表示されるようになります。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「PCIPnP」タブを選択して、「PCI/PnP Settings (PCI/PnP 設定)」画面を開きます。
3. PXE ブートしない PCI カードまたは NIC のフィールドを「Disabled (無効)」に変更します。
4. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

**オプション 2:** BIOS ブート順を手動で設定して、オプション ROM の容量が使い果たされる前にスキャンされるように PXE ブートするデバイスのブート順を繰り上げます。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Boot (ブート)」タブを選択して、「Boot (ブート)」メインメニュー画面を開きます。
3. リストから「Hard Disk Drives (ハードディスクドライブ)」を選択します。
4. ブートデバイスの選択項目を変更して、必要なブートデバイス順になるように設定します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
6. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

## GUI で BIOS 電源ボタンのオプション、即時オフ機能が動作しない (6378165)

BIOS セットアップユーティリティの「Chipset (チップセット)」メニューでは、今後のオプションである「Southbridge Configuration (Southbridge 構成)」画面は表示されなくなりました。このオプションは、適切な順序でのシャットダウンか即時オフかのいずれかに、電源ボタンの動作を設定するのに使用されます。適切な順序でのシャットダウンを設定するためのインタフェースは ILOM GUI インタフェースにまだ表示されていますが、現在は使用できません。代わりに、即時オフ機能を使用することをお勧めします。

### 対処方法

ありません。サーバーの電源を即時にオフにするには、電源ボタンを 5 秒間押し続けます。ACPI が有効になっているシステム上で適切な順序でシャットダウンするには、電源ボタンを押して離します。

---

## LSI ファームウェアの問題

### RAID ボリュームで 64M バイトのパーティション 分けしていないハードディスク容量がメタデータ 用に必要になる (6312581)

RAID ボリュームを作成するには、ファームウェアと BIOS によりハードディスクドライブ (HDD) の最後にメタデータを書き込む必要があります。このため、少なくとも 64M バイトのパーティション分けしていないハードディスク容量が必要です。

Solaris 10 1/06 OS (またはそれ以降) がプリインストールされているサーバーの場合は、プリインストールイメージに、64M バイトを超えるパーティション分けしていない、メタデータ用のハードディスク容量が含まれています。このため、特別な操作は必要ありません。

# ソフトウェアの問題

---

この章では、Sun Fire X4600 サーバーに関連するソフトウェアの問題について説明します。セクションのタイトル内に記載されている番号は、問題に関連する変更リクエスト用に内部で使用する追跡番号です。

この章では、次の項目について説明します。

- 20 ページの「Solaris オペレーティングシステムの問題」
- 21 ページの「Linux オペレーティングシステムの問題」
- 31 ページの「VMware® ESX Server の問題」
- 34 ページの「SunVTS のブート可能診断 CD の問題」
- 35 ページの「Windows Server 2003 オペレーティングシステムの問題」

---

# Solaris オペレーティングシステムの問題

## 2 番目のディスクを挿入すると、CD メディアからの Solaris 10 のインストールがハングする (6374024)

CD メディアから Solaris 10 をインストール中に、2 番目の CD を挿入しても 2 番目の CD が見つからないと Solaris で報告されます。

この問題は今後のリリースで解決される予定です。

### 対処方法

ネットワークインストールを行う場合にはこの問題は発生しません。そのため、Solaris は CD イメージのマウントと読み込みを行うことができます。この問題は、複数の CD を使用せずに DVD メディアからインストールすることにより回避することもできます。

## Solaris の起動時に表示される AMD エラッタ 131 警告メッセージは無視してかまわない (6438926、6447850)

Solaris AMD x64 サポートには、AMD Opteron エラッタ 131 の BIOS 回避策の有無を確認するブート時チェックが含まれています。エラッタ 131 の回避策が必要であるのに、まだ実装されていないことを検出すると、Solaris は次の警告メッセージをログに記録して表示します。

```
WARNING: BIOS microcode patch for AMD Athlon(tm) 64/Opteron(tm) processor erratum 131 was not detected; updating your system's BIOS to a version containing this microcode patch is HIGHLY recommended or erroneous system operation may occur.
```

(警告: AMD Athlon(tm) 64/Opteron(tm) プロセッサエラッタ 131 用の BIOS マイクロコードパッチが検出されませんでした。システムの BIOS をこのマイクロコードパッチを含むバージョンに更新することを強くお勧めします。更新しないと、システムの誤動作が発生する可能性があります)

## 対処方法

Sun Fire X4600 BIOS は、エラー 131 に必要な回避策を含む上位回避策を実装しているため、この警告メッセージは無視してかまいません。

---

# Linux オペレーティングシステムの問題

このセクションでは、Sun Fire X4600 サーバー上の Linux オペレーティングシステムでの既知の問題と関連する対処方法を説明します。

## X Windows Server の起動時の RHEL4 U3 の不一致エラー (6459079)

X Windows を Red Hat Linux 4 U3 で起動すると、次のエラーが表示されることがあります。

```
mtrr: type mismatch for fd000000,800000 old: write-back new:
write-combining
(mtrr: fd000000,800000 のタイプが一致しません。旧 : 書き込みバック 新 : 書き込み結合)
```

## 対処方法

ありません。このメッセージは無視してかまいません。システムの機能には影響しません。

## PCI の Hotplug および Hotswap 機能がサポートされない (6357475)

Sun Fire X4600 サーバーでは、PCI、PCI-X、および PCI-E の Hotplug または Hotswap 機能はサポートされません。Linux カーネルはファームウェアでサポートの検出を試みます。この検出は失敗し、次のメッセージが表示されます。

```
Evaluate _OSC Set fails.Status = 0x0005
(Evaluate _OSC Set が失敗します。ステータス = 0x0005)
Evaluate _OSC Set fails.Status = 0x0005
(Evaluate _OSC Set が失敗します。ステータス = 0x0005)
pciehp: Both _OSC and OSHP methods do not exist
(pciehp: _OSC および OSHP メソッドがありません)
```

## 対処方法

ありません。カーネルからのこれらのメッセージは無視してかまいません。

## ドライブトレイがないために RHEL4 U2 および U3 の CD または DVD-ROM パケットコマンドエラーが発生する (6397835、6461354)

Sun Fire X4600 サーバー上の RHEL4 U2 のブートプロセス中に、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
hda: packet command error: status=0x51 { DriveReady
SeekComplete Error }
(hda: パケットコマンドエラー : ステータス =0x51 { DriveReady
SeekComplete エラー })
hda: packet command error: error=0x50
(hda: パケットコマンドエラー : エラー =0x50)
ide: failed opcode was 100
(ide: 失敗した opcode は 100 でした)
```

このエラーは、Sun Fire X4600 に含まれるトレイのない CD または DVD-ROM ドライブを IDE ドライブが処理する方法に関する既知の問題です。このエラーは、ドライブが CD または DVD-ROM ドライブトレイを閉じようとするために発生します。このドライブにはトレイがないため、エラーが報告されます。

## 対処方法

ありません。このエラーは無視してかまいません。

## RHEL4 U2、RHEL4 U3、および SLES9-SP3 で GUI をブート中に無視できるメッセージ「event field not found (イベントフィールドが見つかりません)」が表示される (6396561、6404681)

RHEL4 U2、RHEL4 U3、または SLES9-SP3 を実行しているサーバー上で、グラフィカルユーザーインターフェースをブートしているときに、dmesg ログに次のエラーメッセージが複数回、表示されることがあります。

```
drivers/usb/input/hid-input.c: event field not found
(drivers/usb/input/hid-input.c: イベントフィールドが見つかりません)
```



X 初期化中に、デバイスの一部が同期を失い、EV\_REP イベントの一部が入力イベントとして誤って解釈される可能性があります。これは HID ドライバのバグが原因で発生します。このメッセージは無視してかまいません。

### 対処方法

ありません。

## RHEL4 U3 で USB 2.0 がサポートされない (6396407)

Sun Fire X4600 上の nVidia USB コントローラでは、USB 2.0 構造にマップされているメモリーは 2G バイト未満である必要があります。2G バイトを超えるメモリーが使用されると、不適切な動作が発生します。USB 2.0 が RHEL4 U3 で正しく動作するためには、今後のパッチが必要です。それまでサポートされるのは USB 1.1 のみです。

### 対処方法

BIOS USB コントローラのサポートオプションを「USB 1.1 only (USB 1.1 のみ)」に設定するには、次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Advanced (詳細)」タブを選択して、「Advanced (詳細)」メニュー画面を開きます。
3. 「Advanced (詳細)」メニュー画面で、「USB Configuration (USB 構成)」を選択します。
4. 「USB Configuration (USB 構成)」画面で、「USB Controller Support (USB コントローラサポート)」を「USB1.1」に変更します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
6. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

## アドインのイーサネットカードが Red Hat Linux の devXXXX として表示されることがある (6406618)

アドインのイーサネットカードを Sun Fire X4600 サーバーの PCI スロット 0-4 に取り付けると、Red Hat Linux はデバイス名の割り当て中に、カードを最初にスキャンします。アドインのイーサネットカードを取り付ける前に Red Hat Linux OS がインストールされていると、新しいカードが devXXXX として報告されることがあります (XXXX は番号)。

### 対処方法

1. 次を実行してネットワークをシャットダウンします。  

```
# /etc/init.d/network stop
```
2. 次を実行して Kudzu データベースを削除します。  

```
# rm /etc/sysconfig/hwconf
```
3. 次を実行して sysconfig ディレクトリから ifcfg-eth ファイルを削除します。  

```
# rm -f /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth*  
# rm -f /etc/sysconfig/networking/devices/ifcfg-eth*  
# rm -f /etc/sysconfig/networking/profiles/default/ifcfg-eth*
```
4. modprobe.conf ファイルを ethX 参照用に編集します。alias eth\* または alias dev\* エントリで始まる行をすべて削除します。
5. システムをリブートします。
6. Kudzu で次回ブートするときにネットワークデバイスを構成します。

## BIOS 38 のサーバーでは RHEL4 NMI ウォッチドッグタイマーを無効にする必要がある (6486170)

RHEL4 の Non-Maskable Interrupt (NMI) ウォッチドッグは、ソフトウェアおよびハードウェアデベロッパが開発中にシステムのロックアップを検出するために使用する仕組みです。NMI ウォッチドッグは、定期的に CPU のステータスをチェックし、プログラムが CPU を割り込み状態のまま長時間拘束していないかどうかを判断します。

BIOS 38 を実行しているサーバーでは、NMI ウォッチドッグが有効になっていると、RHEL4 の SMP カーネルがクラッシュせずにブートしなくなることが確認されています。ウォッチドッグタイマーが無効になっている場合は、RHEL4 を実行しているサーバーは正常にブートします。

## 対処方法

次の手順に従って、RHEL4 のウォッチドッグタイマーを無効にしてください。

1. スーパーユーザー（ルート）としてログインします。
2. `/boot/grub/menu.lst` ファイルを編集します。
3. **kernel** で始まる各行の最後に次のテキストを追加します。  
`nmi_watchdog=0s`
4. 変更内容をファイルに保存します。
5. システムをリブートします。

## RHEL4 NMI ウォッチドッグを無効にすると、BIOS 38 より以前の BIOS を使用しているサーバーのパフォーマンスが向上することがある (6428863)

RHEL4 の Non-Maskable Interrupt (NMI) ウォッチドッグは、ソフトウェアおよびハードウェアデベロッパが開発中にシステムのロックアップを検出するために使用する仕組みです。NMI ウォッチドッグは、定期的に CPU のステータスをチェックし、プログラムが CPU を割り込み状態のまま長時間拘束していないかどうかを判断します。

この処理を実行するには、NMI ウォッチドッグを、CPU の割り込み時間を検出できるように外部タイマーソースに接続する必要があります。AMD Opteron CPU 用のこのタイマーソースはパフォーマンスカウンタです。タイマーの速度は、プロセッサのパフォーマンス向上に応じて上昇します。このため、CPU に非常に負担がかかる状況では、膨大な数の NMI が生成される可能性があります。そうした状況では、NMI ウォッチドッグタイマーを無効にすることをお勧めします。

## 対処方法

次の手順に従って、RHEL4 のタイマーを無効にすることができます。

1. スーパーユーザー（ルート）としてログインします。
2. `/boot/grub/menu.lst` ファイルを編集します。
3. `kernel` で始まる各行の最後に次のテキストを追加します。  
`nmi_watchdog=0`
4. 変更内容をファイルに保存します。
5. システムをリブートします。

システムをブートできるようになります。

## RHEL4 U4 のタイマーティックのロスに関する メッセージは無視してかまわない（6481870、 6486383）

メッセージファイルおよび `dmesg` ログファイルに、次のようなメッセージが表示されることがあります。

```
Warning many lost ticks
```

（警告：ティックのロスが多数あります）

```
Your time source seems to be unstable or some driver is hogging  
interrupts.
```

（タイムソースが不安定になっているか、一部のドライバが割り込みを大量に消費している可能性があります）

このメッセージは異なる IRQ ハンドラ間の競合により発生しますが、システムへの悪影響はありません。

## 対処方法

ありません。

## SLES9 SP3 のブートアップ ACPI エラーメッセージ: 戻りオブジェクトのタイプが正しくない (6461361)

SLES9 SP3 のブートアップ中に、次のメッセージが表示されます。

```
ACPI-0201: *** Error: Return object type is incorrect [SB_.LATA._CRS]
(ACPI-0201: *** エラー: 戻りオブジェクトのタイプが正しくありません [SB_.LATA._CRS])
(Node 00000107ffffdc180), AE_TYPE
((ノード 00000107ffffdc180)、AE_TYPE)
```

### 対処方法

ありません。システムの機能には影響しません。このメッセージは無視してかまいません。

## SLES9 SP3: yast2 でテキストの代わりに制御文字が表示される (6461305)

yast2 (SLES9 SP3 インストールプログラムのテキストベースバージョン) を実行すると、シリアルコンソールのセットアップ内容によっては、画面に通常のテキストの代わりに制御文字が表示されることがあります。

### 対処方法

xterm タイプのターミナル (konsole、xterm、gnome-terminal など) をサポートする GUI ベースのターミナルプログラムに切り替えてください。

## SLES9 SP3 でフロッピードライブに対して重複するブートアップメッセージが発生する (6461350)

ブートアップ中に、SLES9 SP3 カーネルが次のメッセージを何度も出力します。

```
Attached scsi removable disk sdb at scsi2, channel 0, id 0, lun 0
(接続されている SCSI リムーバブルディスク sdb: scsi2, channel 0, id 0, lun 0)
Attached scsi generic sg2 at scsi2, channel 0, id 0, lun 0, type 0
(接続されている SCSI 一般 sg2: scsi2, channel 0, id 0, lun 0, type 0)
  Vendor: AMI          Model: Virtual Floppy   Rev: 1.00
  (ベンダー : AMI      モデル : 仮想フロッピー   リビジョン : 1.00)
  Type:   Direct-Access          ANSI SCSI revision: 02
  (タイプ :   ダイレクトアクセス          ANSI SCSI リビジョン : 02)
```

複数回出力されるメッセージそれぞれに異なるドライブ名が表示されます。上の例では、ドライブ名は sdb です。

### 対処方法

フロッピードライブにアクセスするには、最初のメッセージのドライブ名を使用し、それ以降のメッセージは無視します。

## エラーメッセージ : SLES9 SP3 で「Not a Capable Intel Processor (対応する Intel プロセッサではありません)」と表示される (6461373)

SLES9 SP3 システムのブートアップ中に、すべてのタイプのプロセッサに対して次のメッセージが表示されます。

```
IA-32 Microcode Update Driver: v1.13 <tigran@veritas.com>
(IA-32 マイクロコードアップデートドライバ : v1.13 <tigran@veritas.com>)
microcode: CPU1 not a capable Intel processor
(マイクロコード : CPU1 は対応する Intel プロセッサではありません)
microcode: CPU0 not a capable Intel processor
(マイクロコード : CPU0 は対応する Intel プロセッサではありません)
```

このメッセージは、システムのすべてのプロセッサに対して表示されます。

### 対処方法

ありません。このメッセージは無視してかまいません。

## SLES9 SP3 をグラフィカルモードでインストールすると、メモリー不足を通知するメッセージが表示される (6368933、6466229)

SLES9 SP3 を CD からグラフィカルモードでインストールするように選択すると、このモードでのインストールに必要とされる 96M バイト未満のメモリーしかないことを通知するテキストメッセージが表示されます。

### 対処方法

テキストモードに切り替えて製品をインストールしてください。

## SLES9 SP3 で `cdrecord -scanbus` コマンドを発行すると、警告メッセージが表示される (6461376)

SLES9 SP3 システムで、`cdrecord -scanbus` コマンドを入力すると、次の警告メッセージが表示されます。

```
pg: module not supported by Novell, setting U taint flag.  
(pg: モジュールが Novell でサポートされていません。U 汚染フラグが設定されます)  
pg: pg version 1.02, major 97  
(pg: pg バージョン 1.02、メジャー 97)  
pga: Autoprobe failed  
(pga: 自動プローブに失敗しました)  
pg: No ATAPI device detected  
(pg: ATAPI デバイスが検出されませんでした)
```

### 対処方法

対処方法はありません。

## SLES9 SP3 のインストール中に 128G バイトの スワップパーティションを作成できない (6480937、6485910)

YaST を使用して SLES9 SP3 をインストールしているときに、ハードディスクの準備作業で次のようなエラーメッセージが返されることがあります。

```
Error: Could not set up swap partition /dev/sda1  
(エラー : スワップパーティション /dev/sda1 をセットアップできませんでした)
```

「OK」をクリックすると、インストールが正常に完了します。インストール後、対処方法に示すコマンドを使用して必要なスワップパーティションをセットアップできます。

### 対処方法

スワップパーティションを手動でセットアップするには、次の手順に従います。

1. SLES9 SP3 のインストールが完了してサーバーがブートしたら、ルートユーザーとしてログインします。
2. ターミナルウィンドウで次のコマンドを発行します。  
# **mkswap** <スワップパーティションスペース>  
# **swapon** <スワップパーティションスペース>
3. /etc/fstab ファイルで、スワップパーティション用のエントリがない場合は作成し、オプションとして **default** を指定します。次のようになります。

```
/dev/sdj5 swap swap defaults 0 0
```



---

## VMware® ESX Server の問題

### ESX Server のメッセージ「invalid vmkernel id (無効な vmkernel id)」がネットワーク障害を表す (6471417、6486370)

ESX Server のコンソールオペレーティングシステム (COS) でメインメニュー画面に次のようなエラーが報告されることがあります。

```
0:00:00:31.223 cpu2:1038 init:I586: Invalid vmkernel id:0.  
(0:00:00:31.223 cpu2:1038 init:I586: 無効な vmkernel id:0)  
Distributed vmfs locking may not work.  
(配布された vmfs ロックが機能しない可能性があります)
```

このメッセージは、COS のネットワークが接続されていないか、正しく設定されていないことを示します。

#### 対処方法

ネットワーク設定に DHCP を使用している場合は、ネットワークインタフェースリンクが正常で、DHCP サーバーが機能していることを確認してください。それ以外の場合は、インタフェースのホスト名と IP アドレスが正しく設定されていることを確認してください。

### ESX Server のメッセージ「Unexpected IO-APIC error (予期しない IO-APIC エラー)」は無視してかまわない (6486365、6471408)

ESX Server のメッセージ「Unexpected IO-APIC error (予期しない IO-APIC エラー)」が /var/log/dmesg ログファイルに表示されることがあります。このメッセージが表示されても、パフォーマンスや可用性には影響ありません。

#### 対処方法

ありません。

## ESX Server の dmesg ログのメッセージ 「BIOS reporting unknown devices (BIOS が不明なデバイスを報告しています)」 は無視してかまわない (6486369、6480821)

/var/log/dmesg ログファイルに「BIOS reporting unknown devices (BIOS が不明なデバイスを報告しています)」という内容のメッセージが多数記録されます。これは、ESX Server が制御しない内蔵ハードウェアが存在するときに生成されるメッセージです。これらのメッセージはシステムの可用性やパフォーマンスには影響しないので、無視してかまいません。

### 対処方法

ありません。

## ESX Server のメッセージ「Syncing Hardware Clock to System Time [Failed] (ハード ウェアクロックをシステム時間と同期しています [失敗])」は無視してかまわない (6486367、 6473366)

ESX Server のシャットダウン中に、「Syncing Hardware Clock to System Time [Failed] (ハードウェアクロックをシステム時間と同期しています [失敗])」というメッセージが表示されます。このメッセージはシステムの可用性やパフォーマンスには影響しないので、無視してかまいません。

### 対処方法

ありません。

## ESX Server のメッセージ「Unable to get COS default route (COS のデフォルトルートを取得できません)」は、デフォルトルート IP アドレスが定義されていないことを示す (6486375)

コンソールオペレーティングシステムのデフォルトルートが指定されていない場合は、ブートアップ中に情報メッセージ「Unable to get COS default route (COS のデフォルトルートを取得できません)」が表示されます。このメッセージは、ネットワークポロジに応じて、システムの可用性やネットワークアクセスに影響する場合と影響しない場合があります。

### 対処方法

デフォルトルートを指定するには、`/etc/sysconfig/network` ファイルに次のフォーマットで行を作成します。

```
DEFAULT=XXX.XXX.XXX.XXX
```

(XXX.XXX.XXX.XXX はデフォルトルート IP アドレス)

## ESX Server のメッセージ「Inquiry EVPD Device ID Failed (EVPD デバイス ID の問い合わせに失敗しました)」は無視してかまわない (6473372、6486372)

一部の USB および SCSI ストレージデバイスを接続しているときに、ESX Server が「INQUIRY EVPD Device ID failed (EVPD デバイス ID の問い合わせに失敗しました)」というメッセージを `/var/log/dmesg` ログファイルに報告することがあります。

EVPD (Extended Vital Product Data) は、SCSI デバイスから提供されるオプションデータです。ベンダーによってはこのデータをデバイスにプログラムしていないので、ESX Server の SCSI システムからこの情報メッセージが報告される場合があります。このメッセージは、システムの可用性やパフォーマンスには影響しません。

### 対処方法

ありません。

---

## SunVTS のブート可能診断 CD の問題

### Bootable Diagnostics CD, Version 2.1f (ブート可能診断 CD バージョン 2.1f) の「Meter (メーター)」ボタンが機能しない (6465167)

Bootable Diagnostics CD, Version 2.1f (ブート可能診断 CD バージョン 2.1f) に組み込まれている SunVTS 6.2 グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) には「Meter (メーター)」ボタンがあります。この「Meter (メーター)」ボタンは、ブート可能診断で使用できない Solaris stdperformer ユーティリティを必要とするので、機能しません。

#### 対処方法

ありません。

### SunVTS 6.2 Bootable Diagnostics CD (SunVTS 6.2 ブート可能診断 CD) の実行中に BMC テストが失敗する (6449785)

初期の Solaris 10 オペレーティングシステムリリースを使用しているときに、KCS 経由の BMC 通信時間が非常に遅くなります。

#### 対処方法

KCS サポートが改善されている最新の Solaris 10 リリースにアップグレードしてください。

---

# Windows Server 2003 オペレーティング システムの問題

## 複数のフロッピードライブが存在すると、 Windows ユーティリティの `mkfloppy.exe` が正 しいフロッピードライブを選択しない

FloppyPack.zip に収録されている `mkfloppy.exe` ユーティリティは、任意の Windows システムで実行できます。このユーティリティは、Windows Server 2003 のインストール時に使用する大容量記憶装置ドライバのフロッピーを作成するために使用します。

しかし、システムに複数のフロッピードライブ（USB 接続のフロッピードライブを含む）が存在すると、`mkfloppy.exe` は正しいフロッピードライブを選択しません。

### 対処方法

`mkfloppy.exe` を使用するときは、システムのフロッピードライブが 1 つだけ存在するようにしてください。



# ハードウェアの注意および問題

---

この章では、Sun Fire X4600 サーバーに関連するハードウェアの注意および問題について説明します。

---

## ハードウェアの問題

### 動作時や取り外し時にハードディスクドライブの表面が熱くなることがある (6483742)



---

**注意** – 怪我の危険：動作中はハードディスクドライブの金属面が非常に熱くなることがあります。交換中にドライブを取り外して扱うときに、指を火傷する危険があります。

---

### ヒートシンクおよびファンにほこりがたまること がある

ほこりや異物が蓄積すると、システムの冷却性能が低下することがあります。約 6 か月に 1 度 (ほこりの多い動作環境ではより頻繁に)、システムのカバーを開けて点検することをお勧めします。システムのヒートシンク、ファン、および通気孔を確認してください。必要に応じて、システムを清掃します。ほこりや異物をブラシで取り除いたり、エアで吹き飛ばしたり、慎重に吸引したりしてシステムから取り除いてください。

## 部品番号が異なる Micron 1G バイト DIMM を取り付けると、システムが起動しない (6480932)

1G バイト Micron DIMM をサーバーに取り付けるときは、すべて同じ部品番号の DIMM を使用する必要があります。部品番号が異なっていると、サーバーが起動しません。

### 対処方法

サーバーに取り付けられている 1G バイト Micron DIMM の部品番号がすべて同じであることを確認してください。

## 最初の電源投入後システムファンが減速するまで 1 分以上かかる

---

**注** – サーバーの最初の電源投入後、システムファンが高速から通常の稼働速度まで減速するのに 1 分以上かかる場合があります。これは正常な動作で、問題を示しているわけではありません。

---

## ディスクを DVD-ROM ドライブに挿入するときには、ラベル側を左に向ける必要がある

---

**注** – ディスクを縦方向の DVD-ROM ドライブスロットに挿入するときには、ディスクのラベル側が左を向くように方向を確認してください (サーバーの中心を向くようにする)。図 2 を参照してください。

---



電源 /OK LED

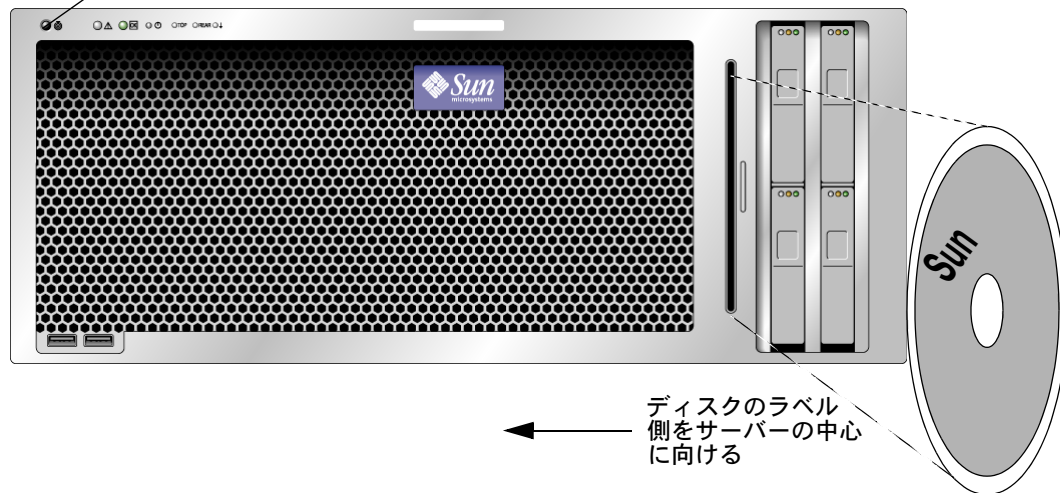


図 2 Sun Fire X4600 サーバーの前面パネル



# 索引

---

## B

BIOS の問題 9

## E

ESX Server の問題 31

## I

ILOM ファームウェアの問題 2

## L

Linux オペレーティングシステムの問題 21

LSI ファームウェアの問題 18

## S

Solaris オペレーティングシステムの問題 20

SunVTS のブート可能診断 CD 34

Sun テクニカルサポート、リンク先 ix

## V

VMware ESX Server の問題 31

## お

オペレーティングシステムの問題

Linux 21

Solaris 20

VMware ESX Server 31

## さ

サービスプロセッサファームウェアの問題 2

## せ

製品アップデート vii

## て

テクニカルサポート、リンク先 ix

## と

ドライバアップデート vii

## は

ハードウェアの問題 37

## ふ

ファームウェアアップデート vii

ファームウェアの問題 2

ファームウェアの問題、LSI 18

ブート可能診断 CD 34

